

非線形代数方程式の簡易数値解法

福井工大 正員 和田 久範
武生工高 正員 滝沢 信之
科学技術高校 多門 喜伊知
京大数理研 三井 斎友

1. はじめに

単独非線形方程式の実根を求める方法は、十分に研究されているとはいへ、なお基本的な多くの問題が残されている。その解法を大別すると、初期値より出発して高い精度で根に収束させる方法と、初期値なしに、すべての根を低い精度で求める方法にわけられるが、単独で万能であるといわれるものはなく、幾つかの方法を組合せたプログラムにしたもののが多用される現状にある。さてここに提案するものは三角関数の周期性および、展開式の収束性を利用して根を求める特殊な方法で、方程式の解法としては全く別の側面より見た試みである。それも単なる試案にすぎないが、以上の意味において、他の解法の補助的手段として用いられるこことを期待してここに提案する。

2. 数値計算の考え方と方法

この解法の考え方は高次方程式の実根を、それより低い方程式の反復計算によって求めようとする試みである。

$$\text{実係数方程式 } f(x) = a_0 x^n + a_1 x^{n-1} + \dots + a_{n-1} x + a_n = 0$$

において、 x を三角関数におき換えて $f(x)$ を変換する。その1つは $x = r \sin \theta$ とする方法であり、その2は $x = r \cos \theta$ とする方法で r を固定し、 θ を助変数として考える。

(1) $x = r \sin \theta$ とする場合

$$f(\theta) = a_0 r^n \sin^n \theta + a_1 r^{n-1} \sin^{n-1} \theta + \dots + a_{n-1} r \sin \theta + a_n = 0$$

$f(\theta)$ において $\sin \theta$ のべきをフーリエ展開を用いて次のように変換する。

$$n! \text{ 偶数 } F(\theta) = A_0 \cos n\theta + A_1 \sin(n-1)\theta + \dots + A_{n-2} \cos 2\theta + A_{n-1} \sin \theta + A_n = 0$$

$$n! \text{ 奇数 } F(\theta) = A_0 \sin n\theta + A_1 \cos(n-1)\theta + \dots + A_{n-2} \cos 2\theta + A_{n-1} \sin \theta + A_n = 0$$

上式の係数 $A_0, A_1, A_2, \dots, A_n$ は参考資料(1)によって容易に求められる。次に三角関数はテラ展開して必要な項数を計算に用いる。

$$\begin{aligned} \sin \theta &= \theta - \frac{\theta^3}{3!} + \frac{\theta^5}{5!} - \frac{\theta^7}{7!} + \dots + (-1)^{\frac{n-1}{2}} \frac{\theta^{2n-1}}{(2n-1)!} \\ \cos \theta &= 1 - \frac{\theta^2}{2!} + \frac{\theta^4}{4!} - \frac{\theta^6}{6!} + \dots + (-1)^{\frac{n}{2}} \frac{\theta^{2n}}{(2n)!} \end{aligned}$$

以上によって $F(\theta)$ の計算は係数 $A_0, A_1, A_2, \dots, A_n$ に展開式を乗ずればよいことになる。又 $F(\theta)$ は r (実数)の任意半径について常に $|r| < \infty$ で収束する。但し、 $|r|$ が大きいと収束は遅くかつ精度が低下するので $|r|$ を大きくすることにより $|\theta|$ を小さく押える方がよいので、いま $|r\theta| \leq \frac{\pi}{2}$ に制限する場合を考えてみる。

さて代数学の知識を借りれば、実根の存在する区間の上限と下限を知ることは容易である。その絶対値の大きい方を $|x_i|$ とすれば $|r \sin \theta| \equiv x_i$, $|n\theta| = \frac{\pi}{2}$ において $|r| \equiv \frac{|x_i|}{\sin \frac{\pi}{2n}}$ を得る。

この条件をみたすことができれば収束の精度は非常によい。しかし、 $|r|$ を大きくすれば各係数の桁数が増大し、有効桁数の不足を生ずることになるのでこの制限が無理になるであろう。特に次数 n の大きい方程式では困難である。この場合 $|n\theta| > \frac{\pi}{2}$ を含めた一般角の計算法が必要になるが、その方法は三角関数には周期性があるのですべての角を $\frac{\pi}{2}$ より小さい角に修正して計算に用いるのである。

次に具体的に計算法を述べる。(ここでは偶数の場合について説明し、奇数の場合を省略する)

$$F(\theta) = A_0 \cos n\theta + A_1 \sin(n-1)\theta + \dots + A_{n-2} \cos 2\theta + A_{n-1} \sin \theta + A_n = 0$$

$F(\theta)$ の各項は次のようになる。

$$f(x) = x^8 - 36x^7 + 546x^6 - 4356x^5 + 22449x^4 - 67284x^3 + 118124x^2 - 109584x + 40320 = 0$$

の実根のうち 0 ~ 10 までの区間にあるものを $x = r \sin \theta$ と $x = r \cos \theta$ と置いて根を求める。

$x = r \sin \theta$ とする場合 $F(\theta) = A_0 \cos 8\theta + A_1 \sin 7\theta$

$$+ A_2 \cos 6\theta + A_3 \sin 5\theta + A_4 \cos 4\theta + A_5 \sin 3\theta + A_6 \cos 2\theta$$

$$+ A_7 \sin \theta + A_8 = 0$$
 $r = 10$ とする

$$A_0 = \frac{r^8 a_0}{128} = 0.078125 \times 10^7$$

$$A_1 = -\frac{r^7 a_1}{84} = 0.5625 \times 10^7$$

$$A_2 = -\left\{ \frac{r^8 a_2}{128} + \frac{r^6 a_3}{32} \right\} = -2.33125 \times 10^7$$

$$A_3 = \left\{ \frac{r^7 a_1}{16} + \frac{r^5 a_3}{16} \right\} = -6.7725 \times 10^7$$

$$A_4 = \left\{ \frac{r^8 a_4}{128} + \frac{r^6 a_5}{32} + \frac{r^4 a_6}{8} \right\} = 15.231125 \times 10^7$$

$$A_5 = -\left\{ \frac{r^7 a_2}{16} + \frac{5r^5 a_3}{16} + \frac{r^3 a_5}{8} \right\} = 27.6686 \times 10^7$$

$$A_6 = -\left\{ \frac{5r^6 a_4}{128} + \frac{15r^4 a_5}{32} + \frac{4r^2 a_6}{2} + r^2 a_6 \right\} = -41.78387 \times 10^7$$

$$A_7 = \left\{ \frac{35r^5 a_3}{32} + \frac{10r^3 a_5}{8} + \frac{3r^1 a_7}{4} + r a_7 \right\} = -53.193384 \times 10^7$$

$$A_8 = \left\{ \frac{35r^8 a_0}{128} + \frac{10r^6 a_2}{32} + \frac{3r^4 a_4}{8} + \frac{r^2 a_6}{2} + a_8 \right\} = 28.809902 \times 10^7$$

$$\cos \theta = 1 - \frac{(8\theta)^2}{2} + \frac{(8\theta)^4}{24} - \frac{(8\theta)^6}{720}$$

$$\sin \theta = 70 - \frac{(12\theta)^2}{6} + \frac{(12\theta)^4}{24} - \frac{(12\theta)^6}{720}$$

$$\cos 6\theta = 1 - \frac{(6\theta)^2}{2} + \frac{(6\theta)^4}{24} - \frac{(6\theta)^6}{720}$$

$$\sin 5\theta = 50 - \frac{(5\theta)^2}{6} + \frac{(5\theta)^4}{120} - \frac{(5\theta)^6}{5040}$$

$$\cos 4\theta = 1 - \frac{(4\theta)^2}{2} + \frac{(4\theta)^4}{24} - \frac{(4\theta)^6}{720}$$

$$\sin 3\theta = 30 - \frac{(3\theta)^2}{6} + \frac{(3\theta)^4}{120} - \frac{(3\theta)^6}{5040}$$

$$\cos 2\theta = 1 - \frac{(2\theta)^2}{2} + \frac{(2\theta)^4}{24} - \frac{(2\theta)^6}{720}$$

$$\sin \theta = 0 - \frac{(3\theta)^2}{6} + \frac{(3\theta)^4}{120} - \frac{(3\theta)^6}{5040}$$

$$\theta = \frac{60320}{1095840} = 0.0368$$

$$\text{漸化式 } \theta_i = \frac{40320 - \delta_{i-1} \theta_{i-1}}{1095840}$$

$$\theta'_i = \theta_i - k \cdot \theta_i$$

$$\delta = (406.36001\theta)^3 - (3436.917223\theta)^2$$

$$\delta' = (12.864728)^4 - (53.044838)^5$$

$$\delta'' = -(27.19803\theta)^4 - (109.986228)^7$$

$$\text{計算結果は右表にあり } X_i = r \sin \theta = 10 \sin(0.100225)$$

$$\text{次 } Y_3 = 8.0 \text{ における } \sum A = 0, \theta = 0 \text{ 时 } X_i = r \cos \theta = 8.0$$

$$A_0 = 0.078125 \times 10^7 \quad P(\theta) = 2.89645680^6 - 130011408$$

$$A_1 = -0.5625 \times 10^7 \quad + 0.3318480^2 - 0.036258 \times 0$$

$$A_2 = 2.33125 \times 10^7 \quad \theta = 0.4379862 \quad Y_1 = r \cos \theta = 9.05616$$

$$A_3 = -6.7725 \times 10^7 \quad P(\theta_1) = 6.531295830^6 - 2.4331048^4$$

$$A_4 = 15.231125 \times 10^7 \quad + 0.431270^2 - 0.0403198 = 0$$

$$A_5 = -27.6686 \times 10^7 \quad \theta = 0.4431271, Y_2 = r \cos \theta = 8.13073$$

$$A_6 = 41.78387 \times 10^7 \quad P(\theta_2) = 1.1140157920^6 - 0.289967708^4$$

$$A_7 = -53.193384 \times 10^7 \quad + 0.00335780^2 - 0.0007521 = 0$$

$$A_8 = 28.809902 \times 10^7 \quad \theta = 0.16978378, Y_3 = r \cos \theta = 7.981353$$

$$\text{次 } Y_3 = 8.0 \text{ における } \sum A = 0, \theta = 0 \text{ 时 } X_i = r \cos \theta = 8.0$$

(2) $x = r \cos \theta$ とする場合

$$f(\theta) = a_0 r^n \cos^n \theta + a_1 r^{n-1} \cos^{n-1} \theta + \dots + a_{n-1} r \cos \theta + a_n = 0$$

$f(\theta)$ において $\cos \theta$ のべきをフーリエ展開を用いて次のように変換する。

$$F(\theta) = A_0 \cos n\theta + A_1 \cos(n-1)\theta + \dots + A_{n-1} \cos \theta + A_n$$

上式の係数 $A_0, A_1, A_2, \dots, A_n$ は参考資料(1)により容易に求められる。

次に三角関数をテラ展開して $F(\theta)$ を次のように項別にまとめる。

$$A_0 \cos n\theta = A_0 \left\{ 1 - \frac{(n\theta)^2}{24} + \frac{(n\theta)^4}{24} - \frac{(n\theta)^6}{720} \dots \right\} \quad A_{n-1} \cos \theta = A_{n-1} \left\{ 1 - \frac{\theta^2}{24} + \frac{\theta^4}{24} - \frac{\theta^6}{720} \dots \right\}$$

$$A_1 \cos(n-1)\theta = A_1 \left\{ 1 - \frac{(n-1)\theta^2}{24} + \frac{(n-1)\theta^4}{24} - \frac{(n-1)\theta^6}{720} \dots \right\} \quad A_n = A_n$$

以上により次の式を得る。(オ4項までをとる場合)

$$-\frac{1}{720} \{ n^6 A_0 + (n-1)^6 A_1 + \dots + A_{n-1} \} \theta^6 + \frac{1}{24} \{ n^4 A_0 + (n-1)^4 A_1 + \dots + A_{n-1} \} \theta^4$$

$$- \frac{1}{24} \{ n^2 A_0 + (n-1)^2 A_1 + \dots + A_{n-1} \} \theta^2 + \Sigma A = 0 \quad \text{但し } \Sigma A = A_0 + A_1 + \dots + A_n$$

これを $P(\theta) = P_0 \theta^6 + P_1 \theta^4 + P_2 \theta^2 + P_3 = 0$ で表わす。

この式は θ^2 を未知数とする3次方程式であるからカルダノの公式を用いて θ^2 を求めることができる。そこで θ が実数ならば $x = r \cos \theta$ 、虚数ならば

$x = r \cos \theta$ 、但しこれが近似解となるためには展開式の収束が十分でなければ (注) $x = r \sin \theta$ とおく場合は 1/4 次束す

ばならない。もし収束しないければ、この解を出発値として逐次 θ と x を補

$x = r \cos \theta$ とおく場合は 8/4 次束す

正し、 $P(\theta) = 0$ を反復して解く必要がある。先ず出発値 θ_0 は正根に対しては

1 かく、2, 3, 4, 5, 6, 7 の根であるが

負根に対しては一とし根の絶対値より大にとる場合は次のようになる。

組立除法でいた方程式から得らね

